

全道集団無料検診 終る!

緑濃い季節に始った、全道10ヶ所での出張相談会、無料検診が終ったのは、もう紅葉も盛りを過ぎる10月17日の札幌でした。私が事務局の相談員として参加したのは8ヶ所でした。初めての経験のためと、又私の決定的な知識不足のため、とまどうことの方が多く、後悔しているのが現状です。

相談会の会場へ見える方達は、どなたもそれぞれに深刻な悩みをかかえている人がかりでした。

事務局長はこう云いました。“相談会での人数の多さにはこだわりたくない。目的の主とするのは難病というものを地域の保健婦さん達に理解してもらい、そして、これからの活動の一助にしてもらえたら……”、難病連と地域との連り、そして、保健婦さん達の難病に対する意識の向上、そういう意味で成果はとても大きかったと思うのです。

全べて相談会を終えて、SLEの多かったのが目につきます。今までの相談会では対象的な2人のSLEの患者さんのお母さんに逢いました。1人はSLEの予後は3年と云われ、悲観しているお母さん、そしてもう1人のお母さんは娘さんが退院后

1度も外来受診してないし、病気のことよくわからない……。
どちらも病気について正確な説明がなされていないために極
端に悲観的又は反対に楽観的になっていると思われました。

又、北見でのSLEの方は、結婚して発病、生れたという3文のか
わいい女の子のお母さんでした。とてもサバサバとしていて病気に対
して少しの不安ももっていない様子に見えましたが、私にとって不安だ夫
のは余りにも病気のことを知らなすぎるということでした。いたずら
に不安ばかり持っても良くないとは思いますが、余く無知とい
うのも先の長い病気の性質を考えるとやはり病気の軽・重にかかわ
らず、きちんと病気を知っておく必要がある様に思いました。

病状が軽いなら、今の状態をどうすれば長く維持出来るか、又、重
い人は少しでも楽になれる様にするにはどうしたら良いか……。
そのためにも病気の性質を正しく知っているべきと思うのです。
そして病気と上手に仲良く付き合っていく方法を見つけること
だと思えます。

相手の正体を良く知らないで、こちらの態度の決め様もない
と云いますから。

これから北海道は長い長い寒さに入ります、冬を迎えての生
活の工夫などお互に交換し合っ
春の暖かさを元気にむかえられる様
に頑張りましょう。



(長谷川道子)

文集発行を目ざして

編集会議 開かれました!

延びていた文集の発行も どうやら原稿もとのい
第1回の編集会議を役員でもつきました。

打ち合せは原稿の査閲・発行日・タイトル・価格・印刷に
ついてなど約2時間で終り、次回へと引きつきます。
なを、役員一同 未経験者集団ですので、経験者あり
ましたら色々アドバイス・お手伝下さい。

発行予定は 1/20 前後です 楽しみにお待ち下さい。

▲お知らせ▼



今まで、9月又は10月に友の会支部の会計決算と共に総会を
行って来ましたが、友の会本部及び、北海道難病連の会計
年度に合わせて、本年のみ(50年10月~52年3月まで)とし
52年4月からは翌年3月までの決算と致したく、御了承
下さるようお願いいたします。 したがって総会及び役員改選も
52年春に予定しております。

物間に専門医を囲む医療相談会や会員同志の
親睦会(例新年会など)を開いて欲しいなど要望があ
りましたらおきかせ下さい、皆さんの御意見、御希望をお
待ちしております

「よきよりのこころ」

—— 田中 うめさん ——

強皮症の田中 順子の母でございます。
「いちばんほし」を娘と共々、楽しみに読ませて頂いております。
くちけぞうになった時には会の皆様のお寄せになった文を
読むことで本当にささえになります。編集部の皆様のゴ
ッ勇 感謝 申し上げます。

(文集に詩を寄せて下さいました)



—— 永井 弘子さん ——

「いちばんほし」ありがとうございました。
ひとりひとりに話しかける様にやさしく、こいねいな内容、
それでいて甘えのないきびしさも感じました。

文集の完成 心より祈り、応援致しております。

(関西支部 役員)

—— 清水 五郎さん ——

ごぶさたしております。8月7日の全道集会、今年こそは出席
しようと楽しみにしておりましたが、家内と息子が交通事故にあ
いまして行けませんでした。

私自身の病気の方(SLE)はわりあい落ちついているので
すが……。

(奥さんの片眼失明につき、度重なる不幸、心より

お見舞い申し上げます。この便りは8月に頂きながら先号に間に合いません。かり遅れてはつたことをおわびします。あれから2ヶ月以上たつたがその後の経過が良いことを祈っております。)



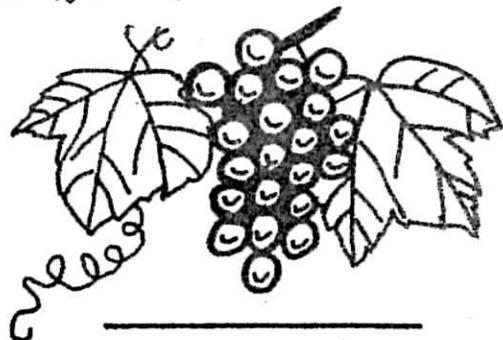
————— 足立 さよるん —————

朝夕は一段と冷え込む季節になり、テレビの今朝のニュースは、北海道は氷がはったとか、これからの季節は私達、膠原病患者にとっては最もつらい時期ですね。私もこの頃では毎日のようにレイノー現象で指先にあらわれるようになりました。北海道に比べますと大阪はずっと暮らしやすい冬だとは思いますが、

過日は「いちばんまし」お送り下さりありがとうございませう。皆さんそれぞれ頑張っておられることがよくわかり、私自身元気つけられました。

今後共、お互いに手を取り合って会の発展のため、又、私達膠原病患者を含めて、社会的弱者の住みやすい世の中になるよう頑張ります。

(大阪在住)



—— 安部 淳子さん ——

いつも会のお世話ありがとうございます。こちらも秋
だけなめ、青空がきれいです。スケッチしたいと思っ
たら一日一日過ぎてゆきます。絵も文章もパソコンよく上手に
なると思ういやらしい気持ちが、すなおに書けない事
なるのでしょうか。

今は田舎の花火用、ケイトウ、コスモス、菊がきれいで
す。親子3人毎日平凡に暮らす日々、貧血で鉄剤
服用、胃薬も。それ以外元気でいられうれしいです。

子供は4年生、この夏水泳が出来る様になりま
した。大きな成長です。日曜日は子供野球チームの
練習に昼前汗を流します。母親にまわる事もなくな
り、ゆく男の子少しさびしくあり反面、男っぽくたくましくな
り、女の子とはちがった楽しみがあります。

(元金川路 現在兵庫県在住)



同じ町に住んでいる会員同志なんだ
けど一度も逢ったことがないから、手紙を書
くのも恥ずかしい……。こんな思いをされている方
はいませんか？

そんな時“いちばんほし”にお便りを下さい。
時間は少しかかるけど、あなたの心は通じる
はず。会員同志が友達になり、横のつながり
がどんどん広がることを望みます。（寺嶋）

❀ いちばんほしの輪を広げよう——

外来で顔を合わせる膠原病の人に“いちばんほし”
を見せてあげて下さい。友の会を知らない人に会があるこ
とを知らせてあげて下さい。

6月号・8月号の残部が少しありますので、ご希望の方にお
送りします。

◆ 新入会員 紹介 ◆

・宮沢ヤス子

・高橋京子

・小杉真智子

・林田 佑子

告知板

◎ 膠原特集 2号

内容は今までに本部にお寄せ下さいました医療相談に対する先生方の御回答と、50年7月のアンケート調査をまとめたのせてあります。

1部 300円に送料120円 合計420円を切手で本部事務局へお送り下さい。

◎ 膠原病のはなし

順天堂大学病院の土橋川優一先生が、患者向けにわかりやすく書いて下さいました。1冊 980円に送料160円 計1140円 本部まで本到着後同封の振替用紙で送金して下さい。ハガキで申込みます。

本部一 ^{〒158} 東京都世田谷区瀬田5-24-19 寺山えみ様

◎ 難病白書

今年2月に紹介しました。まだお読みになっていない方はぜひお求め下さい。1冊5000円のと3会員価格は3000円です。支部まで申込み下さい。

編集人 全国膠原病友の会 北海道支部
札幌市南区 寺嶋礼子

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市中央区北1条東4丁目 本間下村

昭和48年1月13日 各種郵便物認可 HSK通巻第54号

いさばと号し No.20 昭和51年10月10日発行(毎月10日発行) 1部 50円